

昨年11月、国史跡指定の答申を受けた甲立古墳、永久保存に等しい国レベルの価値が認められました。この古墳が評価された点、その価値は何か、今回から3回シリーズで詳しく紹介します。

編集後記

はじめて特集をほぼ一人で作り、ました。そして、特集を作るのって、とても大変だなあ…と痛感。作っている最中に何を考えているかという、取材させていた人、いた人に喜んでもらいたいな…とか、関係部署の人にねらった効果が得られるようになればいいな…と思っています。そんな話を相棒の田村さんにすると、「それはとても大切なことです」とお褒めの言葉をいただきました。(原田)

今回の特集記事のテーマは子育て支援。子どもを育てることは、並々ならぬ苦労があると思いますが、わが子の成長を見ることは、ほかに替えがたい幸せなことでもあるのかな、と想像しています。ファミサポ事業を通じて、子どもを持つお母さんが少しでものびのびとできる時間が作ればいいなと思います。(田村)

今月の表紙

提供会員の娘さんの希ちゃん、依頼会員の娘さんの悠希ちゃん、大の仲良し。この日は希ちゃんのお母さんも出迎えをしてくれて、三人で手を繋ぎながら帰宅しました。悠希ちゃん、お母さんが帰ってくるまで寂しくないね。



初回に紹介するのは古墳に伴って出土した家形埴輪6個体のうち、ほぼ完全な形に復元された2号家形埴輪です。古墳の中心部、埋葬施設のある後円部の上面に見つかった「石敷区画」(5基の家形埴輪を並べ小型の石を敷き詰めていた跡)から出土しました。大型で全体の8割以上の破片が残っており、この時期の家形埴輪としては全国でも極めて保存状態の良い例です。切妻式の屋根と8本の角柱で2間×2間の、一見2階建てのように見えますが、1階部分は柱のみの高床式建物を表現しています。したがって上層、2階部分が部屋となりますが各柱の間は壁のない窓のような吹き放し状となっています。全体に精巧な作りで屋根は網代模様と押縁、短辺側の先端には反り返る破風板、側面に棟持柱、斗束、木鼻状の桁材など建物の細



上層の柱に線刻されている「鍵手文」と呼ばれる模様。

部がよく表現されています。また最も特徴的なのが上層の柱、長辺側の面に「鍵手文」と呼ばれる模様を線刻していることです。全国でもたいへん珍しい例です。家形埴輪は古墳に葬られた人物が生前に使っていた住居や建物を表したものであるという解釈があり、当時の建築文化を考える上でも貴重な資料といえます。この2号家形埴輪は出土状態や保存の良さ、精巧な作りから甲立古墳の価値を代弁する逸品です。

# Akitakata

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

NO.144

2

2016.Feb

発行編集

安芸高田市

政策企画課

〒731-0592

広島県安芸高田市吉田町吉田791

Tel.(0826)42-5612

Fax.(0826)42-4376

http://www.akitakata.jp/

ほんの少し さし出した手が  
ほんの少し 笑顔をつくる



(今月の主な内容)

2 ご存知ですか？ファミリー・サポート・センター事業